

## 第2報 生活における優先事項と負担事項

○大阪城南女短大 喜多智子 大阪樟蔭女大学芸

一棟 宏子  
伊海 公子

目的：働く女性が、家庭生活の中で重点をおき優先している事項と、負担や困難を感じている事項について、単身居住者（423件）、未婚で家族と同居している者（348件）、既婚者世帯（332件）の3グループに分け、それぞれの生活実態にもとづいて問題点を探る。

方法：第1報と同様である。

結果：①仕事や家事に対する考え方は、未婚者と既婚者で大きく異なる。すなわち、既婚者の方が結婚時に仕事を優先し、家事を夫婦で対等に責任を持つという考え方が明確である。②未婚者の7割以上は夫に育児に期待しているが、既婚者の4割強は夫が育児に積極的ではないと厳しく評価している。掃除、炊事に関しても同様である。③家庭生活で大切にしている事項についても、未婚者と既婚者で傾向が異なる。前者は、友人とのつきあいや家族とのだんらんが優先事項になっているのに対し、後者では家族のだんらんと健康が優先されている。④現在の生活を100としてその重点配分をみると、やはり未婚者と既婚者に違いがある。未婚者は、娯楽が27で最も重要視し、次いで食生活24、衣生活22、教養16、住生活11と続く。他方、既婚者は食生活が38で比重が大きい。他は差異がなく、娯楽18、衣生活16、住生活15、教養14であった。将来の重点のおき方は、突出した項目が若干少なくなり、バランスよく心がけていることがわかる。⑤生活の中で負担や困難に感じている事項は、未婚者の場合、自分の健康、友人とつきあう時間の不足、収入や家計が多いのに比べ、既婚者では日常の家事、子供の教育、家族とのだんらん時間の不足をあげている。この他、買い物、育児、家族や自分の健康に困難を訴えている人も多い。